オーガニックを着る

パドック株式会社

葛和紙糸

葛根パウダー

**「人と自然にやさしい」を追及し、有機栽培の綿を使い、
天然の彩土で染め、あくまでもオーガニックとエコロジーにこだわった
ベビーウエア・婦人服を提供**

葛根を活用した和紙繊維「葛和紙」

同社を訪ねると、玄関一面に何かのカスのようなものをシートの上に一面薄く広げてあった。不思議に思って社長さんに尋ねると、「吉野葛の製造過程で葛根から葛澱粉を取った残りカスは廃棄物として捨てていたものを、有効利用して繊維にするために、天日で乾燥しています。」との答えである。俄然興味がわいて「吉野葛の残りクズから繊維ができるのですか？」と聞いたところ、

「吉野葛の原料となる葛根の 90％は、廃棄物として捨てていました。その有効利用をめざした奈良県繊維工業協同組合連合会のプロジェクトに参加して、商品化を進めているところです。

当社は、この残りカスを直径 20 ミクロンにし、このパウダー状のものをマニラ麻で作る和紙に漉き込み、その和紙を撚って撚糸とし、これを横糸にして織物を作ります。衣料、靴下、身の回り品等にする予定です。

葛根を漉き込んだ「葛和紙」繊維は、肌に優しい。葛根のカスを扱っていると手がスベスベしてくるのがその証拠です。また、葛根繊維は抗菌性に富む上、マニラ麻の和紙繊維は、UV カット、軽量性、吸水性に富みます。オーガニックとエコロジーを大切に考えている方々に必ず受けますよ。当面は、フキンやボディータオルにしようと考えていますが、麻の良さを活かして夏用の衣料も視野に入れています。」と発明者の社長さんが自信を持って語る。

吉野葛のカスから葛繊維をとる場合、葛澱粉が邪魔なので酵素で澱粉を分解し、きれいな葛繊維にする研究を奈良県工業技術センターが信州大学の協力を得て行った。これは当たり前の発想であるが、なんと同社の社長の発明は、カスを丸ごと有効利用する逆転の発想である。さすが、日頃オーガニックやエコロジーを提唱する社長だけある。

オーガニックにこだわった商品展開

1）オーガニック・コットンの使用

同社は、オーガニックにこだわり続けている。その徹底ぶりを紹介しよう。

同社のベビーウエア、婦人服のブランドは“オーガニック・ガーデン”という。1,994 年に協同組合エヌエスの下でできたブランドである。このブランドの製品には、素材に“オーガニック・コットン”（有機栽培綿）を使っている。

“オーガニック・コットン”とは、化学肥料や農薬の使用を中止して 3 年間以上経った健康な土地に、牛糞を原料にした有機肥料を使い、害虫駆除にはてんとう虫を放つなどで栽培された綿花を使って、加工段階でも漂白・防縮加工・柔軟剤などの化学処理をせずに作られ、それぞれの段階で公的機関で認証されたコットンのことだ。

ベビー服

ベビー雑貨

2）染色にもオーガニック

ここまでオーガニック（化学品を使わないこと）にこだわっているのに、染色で合成染料を使ってしまっては、オーガニックでなくなる。そこで同社の製品は、天然にある色の付いた土である彩土（はに）で染める。

オーストラリア大陸にそびえるエアーズロックの褐色の土で染めるとエアーズロック・ピンクという色に、バリ島の黒褐色の活火バトゥールのカルデラ湖の黒土で染めるとバリ・チャコールという色に、江戸時代既婚の婦人が付けたお歯黒の原料の五倍子で染めると黒色になる。

このように同社の商品には、どこを探しても合成化学品は一切使っていないという徹底ぶりである。

同社は、戦前日本初の洋装のベビードレスを売り出したという歴史を持つ昭和 15 年創業の会社である。赤ちゃんの皮膚の安全を考えた末に到達した結論がオーガニックであったのではなかろうか。

パドック株式会社

代表取締役　　福田　保夫

〒 635-0055
奈良県大和高田市曽大根 2 丁目 7 － 18
TEL 0745 － 23 － 1828
FAX 0745 － 23 － 1840
URL http://www2.mahoroba.ne.jp/~paddock-info/